

ふるさと名品オブ・ザ・イヤーとは

内閣府、農林水産省、経済産業省後援のもと、民間企業などが独自の切り口による部門提供者として推進し、地域の名品とそれを支えるストーリーを応援する表彰制度。この制度においてリクルートジョブズは、「地方創生を担う働き手を確保するには、

主婦やシニアなどの多様な方が働ける環境をつくる」ことが重要」との考えから、「主婦やシニアの方の活躍創出部門」を提供。2018年度にエントリーいただいた、地方創生に貢献する全国各地9事業者の人材・名品取り組みについてご紹介します。

縞模様の凛とした美しさ 現代によみがえった「小倉織」

株式会社小倉 縞縞

(福岡県北九州市)



▲小倉織は木綿でありながら絹のような光沢があり、丈夫でしなやか。経糸(たていと)は通常の織物の3倍の密度で、色の濃淡による立体的な縞模様を描き出すことが特徴。「小倉 縞縞 KOKURA SHIMA SHIMA」ブランドの製品は風呂敷、ポーチ、バッグ、カーテンまで多彩。2007年には、福岡県産業デザイン賞の大賞を受賞

▼商品企画などのほか、商品デザインも手掛ける松元由樹さん。「初めて築城先生の商品を見たとき、小倉織の美しさに感動しました」



株式会社小倉 縞縞

福岡県北九州市小倉北区大手町3-1-107
TEL 093-561-0700

<事業内容>
繊維製品のデザイン、製造、販売、企画・プロデュース
<http://shima-shima.jp/>

家族のように支え合う、小倉 縞縞ファミリー

小倉 縞縞のスタッフは、ほとんどが女性。年齢層も幅広く、独身者、子育て中の人、身内の介護に携わる人など、多様な女性たちが在籍しています。子どもの学校行事や家族の通院などがあると仕事をフォローし合うことも多いですが、スタッフが「社長はお母さんみたいな存在」と話すように、同社には家族さながらにお互いを支え合う風土が。何より、スタッフの中には以前から小倉織や小倉 縞縞のファンだったという人が多数。笑顔で働く彼女たちのいきいきとした姿は、「好き」を仕事にした充実感にあふれています。

一度は途絶えた小倉織を、姉妹の手で現代に再生

江戸初期より豊前小倉藩(福岡県北九州市)で織られていた小倉織は、たて縞模様の美しさと丈夫でしなやかな質感から武士の袴や帯に珍重され、全国に普及。戦時下の昭和初期に一旦生産が途絶えましたが、1984年に染織家の築城則子さんが手織りの小倉織を復元。その後、量産を目指して機械織りの小倉織の生産に乗り出したのが、築城さんの妹である小倉 縞縞代表取締役社長・渡部英子さんです。渡部さんは築城さんとタッグを組み、「小倉 縞縞 KOKURA SHIMA SHIMA」ブランドを展開。小倉織の魅力を活かしたファブリック製品が、国内外で高い評価を得ています。



▲代表取締役社長の渡部英子さん。染織家の姉・築城則子さんがつくる手織り製品を販売していたが、2005年に小倉織の機械織り生産に成功、2007年に現代版小倉織「小倉 縞縞」ブランドが誕生。2018年には同社専務が小倉織物製造株式会社を設立。外部委託していた生地製造を自らの手で行うなど、小倉織の伸展に尽力している

リクルートジョブズのサイトにて詳細をご紹介します。 <https://www.recruitjobs.co.jp/furusato/>

